

いのちの授業【社会科】学習指導案

指導者 S・H

1, 本時の指導

(1) 単元 太平洋戦争とある兵士の思い

(2) 目標 WW (太平洋戦争) がどのように進み終戦を迎えたのか理解することができる。(社会科)

中国や東南アジアの人々に日本がもたらした大きな不幸について理解することができる(第1時)。

実際にその戦争に行った日本の若者は、命や死についてどう考えたのか考察することができる(本時)。

	学習活動	主な発問()と指示()	指導上の留意点(・)と評価()
導入	十五年戦争についてその時間的な経過をまとめる。	前時の授業から、十五年戦争についてまとめてみよう。	・前時の学習プリントから日本が中国や東南アジアの人々にしたしうちについて簡単に復習をする。 ・被害を受けた人々の気持ちを考えさせる。
展開	特攻隊へ志願するように求められた若い兵士の想いについて考える。 学徒出陣をした若者は実際にはどのような思いを持って戦ったのかを理解させる。	1945年5月、沖縄に向けて飛び立つ特攻隊員に志願を求められた若い兵士がいた。現在のあなたなら、どうしますか。 ・いやだ ・行きたくない ・逃げる この時代の若者はなぜ、自分の命が100%なくなるような攻撃に志願したのだろうか。 ・この時代はそういわないと捕まる ・みんながするのでいやといえない ・天皇陛下の命令には逆らえない ・祖国を守るために純粋に信じていた ある兵士の手紙です。この手紙を読んで何を感じましたか。	・戦後60年記念映画「ゼロ」の1シーンから、自分がもしこの航空隊員だったらという視点で考えさせる。 ・ビデオの続きから、長谷川上飛曹以外全員が志願したことを知らせ、自由にその理由を考えさせる。 ・志願せざるを得なかった国家や教育などの社会情勢について触れる。 ・純粋にお国ためという宗教のようなものが存在したこともあわせて感じさせたい。 ・資料集と「きけわだつみのこえ」から手紙を引用して資料を提示する。 この時代の社会情勢を踏まえて考えをまとめることができたか、プリントで評価する。
まとめ	15年戦争の学習のまとめをする。	世界恐慌から始まったこの単元の学習が終わります。政治や経済のまとめは前時までで終わっていますので、本時は、この時代を生き た人々に今自分が思っていることを手紙にしてみよう。	・政治や経済については終わっているので、本時では命という視点でこの時代を生き、そして死んでいった兵士たちに現在の自分と比較してメッセージを送らせたい。そこから、生きてくても生きられなかった命の存在を明確にして、自分の生き方を考えさせたい。 命の重さについて何にも代え難いという想いをもちながら、めまぐるしい時代の変動の中で生きられなかった命から、自分の命と人生を大切にしていこうという気持ちに触れているか。

